

ヒットブランド の源泉

サン電子株式会社



サン電子株式会社 概要



本社所在地：東京都新宿区西新宿4丁目3番12号
設立：1970年6月9日
代表取締役社長兼最高経営責任者（CEO）：篠田 英二
従業員数：230名（2018年4月現在）
事業内容：メーカー事業「情報通信機器の製造、販売」（各種受信用アンテナ、各種混合器・コンバータ・ブースタ、分配器・分岐器、テレビ端子・直列ユニット、各種フィルタ、ケーブルインターネット用伝送機器、LAN配線機材、住宅情報分電盤、各種ケーブル）、情報通信システム事業、卸売事業

H P: <https://www.sun-ele.co.jp/>

沿革：

- 1970年 3月 ビル及びホーム共聴システム機器の製造販売を開始
- 1970年 6月 サン電子株式会社設立
- 1973年 5月 直列ユニットに関する実用新案2件を取得し、量産体制を確立
- 1975年 10月 「電気通信工業—建設大臣許可」を受け、受信システムエンジニアリング体制を確立
- 1977年 6月 関連会社 東北サン電子株式会社設立（仙台市）
- 1987年 11月 BL優良住宅部品認定（テレビ共同受信機器）
- 1987年 11月 住宅・都市整備公団（現独立行政法人都市再生機構）指定業者の認定
- 1989年 6月 美里工場開設（埼玉県児玉郡美里町）
- 1989年 8月 関連会社 仙南サン電子株式会社設立（宮城県柴田郡大河原町）
- 1996年 9月 美里第二工場開設（埼玉県児玉郡美里町）
- 1997年 11月 関連会社 東北サン電子株式会社・仙南サン電子株式会社を合併
- 2002年 3月 ISO9001認証取得
- 2008年 9月 LAN配線機材販売を開始
- 2009年 12月 埼玉事業所 中央棟竣工（埼玉県児玉郡美里町）
- 2012年 4月 埼玉事業所 東館竣工（埼玉県児玉郡美里町）
- 2012年 4月 埼玉事業所 電波暗室竣工（埼玉県児玉郡美里町）



テレビアンテナメーカーは数多くありますが、国内生産にこだわっているのは、東京・新宿区のサン電子株式会社様。埼玉県美里町にある自社工場は、周囲を自然豊かな環境が取り囲みながらも、最新の研究開発、生産設備を備えたものづくりの最前線でもあります。埼玉事業所の一角で、小野田幸夫常務取締役埼玉事業所所長、工藤太一執行役開発部部长、峯澤敬隆執行役機器事業部部长の3氏にお話いただきました。（文中での敬称は略させていただきます。）



アンテナから情報分電盤まで 情報通信システムのサン電子



左：峯澤敬隆 執行役 機器事業部部长 中：小野田幸夫 常務取締役 埼玉事業所所長 右：工藤太一 執行役 開発部部长

こだわりの国内生産

編集部 御社の沿革を簡単に教えてください。

小野田 1970年創業以来、

おかげさまで創立49周年を迎えます。東京都西新宿に本社をおき、テレビ共同受信機器

総合メーカーとして、機器の設計・製造・販売からシステム

工事およびメンテナンスまで総合的に展開してきました。

当初は※ファブレスメーカーとしてスタートしましたが、現在では設計開発から生

産まで埼玉県美里町の自社生産工場（埼玉事業所）で行い、

メーカー事業の生産拠点として機能しています。

※ファブレスメーカー＝工場を持たないメーカーのこと

編集部 サン電子のものづくりの特徴というところ

工藤 国内生産にこだわっていることです。設計開発部門と

生産部門、電波暗室等を運用する試験研究部門が埼玉事業

編集部 まずは皆様のプロフィールから教えていただけますか。

小野田 1979年に入社し、埼玉営業所・福岡営業所ほか

で販売活動、近年においては機器販売事業を担当しておりました。

一昨年より生産活動および開発設計を行う埼玉事業所を管理しています。

工藤 1994年入社以来、開発部門に勤務しております。

分配器・混合器・直列ユニットをはじめ、特定チャンネルフィルタに至るまで、開発設計一筋に取り組んでおります。

峯澤 1991年入社以来、一貫して営業部門で勤務をして

おります。東京営業所へ配属後、横浜営業所、ふたたび東京営業所、仙台営業所を経て現職に至っております。



コムスペース
情報分電盤は、新しい家の
スタンダードです。



- ① LANスイッチングHUB(8ポート)
- ② 4K・8K衛星放送対応TV用分配器(8分配)
- ③ 4K・8K衛星放送対応 マルチブースタ
CS・BS・ケーブルテレビ・地デジといったあらゆる受信方式に対応。
- ④ 電話用端子板(1系統8分岐)
- ⑤ 電源コンセント(6口)
ブースタやネットワーク機器の電源に使用します。
- ⑥ ラック(フリースペース)



編集部 情報分電盤はここ最近

工藤 テレビ、電話、インターネット(LAN) 関連機器を一括管理する設備を構築します。

編集部 あらためて、情報分電盤とはどういうものなのでしょうか。

編集部 数あるブランドの中で、代表的なブランドは何ですか。
峯澤 当社の中核商品となる『情報分電盤(コムスペースシリーズ)』です。2000年に販売を開始以来、2002年、2013年、2018年にモデルチェンジを行い、4代目のモデルになっています。将来を見据えた快適なマルチメディアライフを提案する主力ブランドです。

「情報分電盤(コムスペース)のヒット

所内にありますので、生産現場で明らかになった改善点やアイデアを即座に設計開発部門にフィードバックすることが出来ます。

編集部 情報分電盤はここ最近

工藤 テレビ、電話、インターネット(LAN) 関連機器を一括管理する設備を構築します。

編集部 あらためて、情報分電盤とはどういうものなのでしょうか。

編集部 数あるブランドの中で、代表的なブランドは何ですか。
峯澤 当社の中核商品となる『情報分電盤(コムスペースシリーズ)』です。2000年に販売を開始以来、2002年、2013年、2018年にモデルチェンジを行い、4代目のモデルになっています。将来を見据えた快適なマルチメディアライフを提案する主力ブランドです。

「情報分電盤(コムスペース)のヒット

所内にありますので、生産現場で明らかになった改善点やアイデアを即座に設計開発部門にフィードバックすることが出来ます。

編集部 「コムスペース」とい

工藤 ライフスタイルの変化によって住宅内に必要な配線システムも変わります。たとえばテレビの受信形態が、アンテナからケーブルテレビ受信に変わったり、子供部屋にLAN配線が必要になったり、スマートホンを快適にするWi-Fi環境が求められるなど、ご要望は様々です。「コムスペース」と先行配線を組みわせていただければ、将来の変化にも安心して快適なマルチメディアライフをお届けします。

編集部 「コムスペース」の開発の背景

※国内インターネット利用人口：2000年…4710万人、2017年…1億250万人。(出典)総務省「情報通信白書」

長について教えてください。
工藤 ライフスタイルの変化によって住宅内に必要な配線システムも変わります。たとえばテレビの受信形態が、アンテナからケーブルテレビ受信に変わったり、子供部屋にLAN配線が必要になったり、スマートホンを快適にするWi-Fi環境が求められるなど、ご要望は様々です。「コムスペース」と先行配線を組みわせていただければ、将来の変化にも安心して快適なマルチメディアライフをお届けします。

「コムスペース」開発の背景

最新モデルのメイン機種となる「COM-K1000H」は、新4K8K衛星放送に対応するブースタをはじめ、筐体が可動する新設計の8分配器を採用することで施工性が大幅に向上し、フリースペースも確保出来ました。さらにLANスイッチングHUBは、ギガビット対応(8ポート)を搭載することで快適な通信環境も実現しています。

工藤 コミュニケーションスペース

(communication space) の略です。情報交流・意思疎通の中核となる機器ならば将来に対応するスペースとして名付けられました。

編集部 ヒットブランドがアン

テナ以外というのは意外でした。開発の背景を教えてくださいませんか。

工藤 放送と通信の融合と言わ

れて久しくなりますが、もともとテレビは放送、電話は通信のように大別されていました。お客様がアンテナ受信からケーブルテレビに切り替える場合、CATVブースタの交換が必要になったり、プロバイダーを変えたい場合は、設置機器も変更しなければなりません。また新たな放送チャンネルの追加や通信速度の高速化に伴い、機器交換も容易に出来ることが求められました。このような課題を解決するための対応機器・設備が必ず必要になると思い手掛けました。

お客様目線の商品開発

編集部 開発に当って苦労したのはどんなことでしょうか。

工藤 お客様のニーズを満たすためには情報分電盤のスペースに課題が残りました。限られたスペースを効率よく、さらに将来を見据えたシステムに対応出来るようにするため

に、コムスペース専用の増幅器や分配器の開発から着手しました。アンテナ受信でもケーブルテレビ受信でもスイッチひとつで切換え可能な「マルチブースター」の開発には大変苦労しましたが、これが現在のコムスペース用ブースターの大きな礎になっています。

編集部 課題はどのようにして

解決に導くのでしょうか。

小野田 常にお客様の声を吸い

上げて商品開発に活かすことを心掛けています。創業当時のポリシーですが、機能や価格のほかに使いやすさを

常に追求してきました。当社が扱っている商品は、机上の図面で評価されるものではなく実際の現場で役に立つ商品でなければなりません。そのためには現場の生の声、営業

情報のフィードバックにより、お客様から求められる商品作りに努めています。これを素早く商品政策に取り入れることで、いかに短時間に低価格で扱いやすい商品にして市場に送り出せるかが重要であると受け止めています。

工藤 かつて、住宅内のテレビ

配線が4回線から5回線へ移行しつつあった当時、多くのお客様から5分配器の必要性を伺いました。しかし商品ラインナップは4分配器の次は6分配器のため、「業界初の5分配器」を手掛けたところ、市場ニーズとマッチして爆発的なヒット商品につながったという例もあります。今では5分配器が業界標準にもなっています。



編集部 最後に本誌読者の電材

卸店の方へメッセージを。

峯澤 ここ数年振り返ると、異

常気象とも言える豪雪災害や大型台風の上陸など、全国各地で大きな自然災害が生じています。昨年も連続上陸した大型台風により屋根上に設置した素子アンテナが倒れる被害が多く生じました。テレビ設備リニューアルの際には、台風など自然災害の影響を受けにくく、スタイリッシュなデザインアンテナへの切り替

えをお勧め致します。当社では20素子相当の水平若しくは垂直偏波用、増幅器内蔵の有無、選べる3色など、受信環境やカラーバリエーションを含めて、全12機種をご用意しています。

また、昨年12月1日より「新4K8K衛星放送」が開始され、関連商品の出荷に活況を呈しています。一方で「新4K8K衛星放送」に対応するテレビ受信設備をリニューアルするためには、従来の機器から4K8K対応商品への交換が必要であり、あわせて無線通信に障害を与えない電波漏洩しない設備が求められています。新築設備への提案とともに、既存住宅や共同住宅・マンションに至るまで限り無いリニューアル需要への取り組み強化の必要性を感じています。

「工・販・製」の三位一体となって提案・普及促進に努めて参ります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



人材育成 「社長塾」



「社員教育には力を入れており、特に新入社員研修は年5回、人事部が企画し運営する独自の研修を実施しています。講師も役員や社員が行い、会社全体で社員を育成する風土が出来ています。」（小野田 常務取締役）

また、階層別の人材育成で特徴的なのは、トップマネジメントによる「社長塾」。もともとは創業者が始めたもので、社長自らが指導する初級役職者・ミドル次世代リーダーの階層別人材育成です。それが現在でも受けつがれており、毎年開催されています。

埼玉県 障害者雇用 優良事業所



埼玉事業所では地域社会への貢献を重要な企業活動として障害者の方々を積極的に雇用してきました。昨年は、これまでの実績をもとに「埼玉県障害者雇用優良事業所・第86号」として認証を取得。今後も障害を持つ方々にも働きやすい職場環境を整えて社会に貢献できる企業作りを目指して参ります。

すご楽コネクター F-5G

サン電子の
イチ推し!
ICHIOSHI
ご紹介

接続作業が面倒...
リング位置がズれる...
電波漏洩が心配...

4K8K

新4K8K衛星放送に最適な高シールド

すごく、楽ちん。

新4K8K衛星放送対応
F形コネクター(5C用)
形名:F-5G
メーカー希望小売価格:200円(税別)
JAN:45 34022 349114

簡単施工 **電波漏洩防止**

特許出願中

編組の折り返し不要
加工して

かしめリング不要
かぶせて

芯線は適宜カット
かきめて完了!!

1 2 3

簡単施工で漏洩も防ぐ、高シールドコネクター

簡単施工で漏洩も防ぐ、 高シールドコネクター

新4K8K衛星放送の設備導入・改修においては、新チャンネルがWi-FiやBluetoothスなどの無線通信に障害を与えるため、機器本体の電波漏洩はもとより、同軸ケーブルコネクターなど、接続周りの漏洩防止も重要な課題です。

新開発の「高シールドF型コネクター(F-5G)」(5C用)は、従来のF型コネクターに付属する「かしめリング」を廃止、本体一体構造として同軸ケーブルを覆う画期的な構造を採用(特許出願中)、従来コネクターより高いシールド性を確保すると共に省施工も実現しました。

同商品は、従来のF型コネクター加工で発生するケーブル加工時の偏組の折返し作業、かしめリングの挿入、ケーブル内部(偏組と絶縁体の間)へのコネクター挿入等、煩わしい作業から解放され、ケーブルのシース(外皮)を剥いてコネクターを被せ、ベンチでかしめるだけで加工が完了。従来の5C用F型コネクターと同価格を設定することで、4K8K時代に相応しい新機軸のコネクターとして普及を目指します。

高出カブースタ C B U F - K 4 6 D / C A B C - K 4 5 W

新4K8K衛星放送に対応したアンテナ共同受信設備に最適なC B U F - K 4 6 D (46 dB型)とC A T V 共同受信に最適なC A B C - K 4 5 W (45 dB型)の2機種をラインアップ。新4K8K衛星放送の伝送波であるB S C S 帯域は、定格出力322.4 MHzにおいて共に117 dBと高い出力レベルを実現しました。マシソン等の共同受信設備にも、安心してご利用いただけます。

携帯電話やW i f i ーなど、他のサービスへの影響を軽減する高シールド設計の為、安心してご利用いただけます。また同商品は国内で設計、生産された日本製品です。また環境面に配慮したR O H S 指令(2018年11月現在)にも対応。高品質を維持しています。

携帯電話やW i f i ーなど、他のサービスへの影響を軽減する高シールド設計の為、安心してご利用いただけます。また同商品は国内で設計、生産された日本製品です。また環境面に配慮したR O H S 指令(2018年11月現在)にも対応。高品質を維持しています。

新4K8K衛星放送対応に 最適なCATVブースタシリーズ

■C A B C - K シリーズ

C S ・ B S 定格出力117 dB μ (50波)の高出力タイプ45 dB型を新たにラインアップ。

高出力タイプは、入力A T T 等に加えて、チルト調整機能、C S ・ B S 帯域には入力コライザ※を搭載。

きめ細かなレベル調整が行え、様々なシーンに対応します。

※40 dB、45 dBにおいて

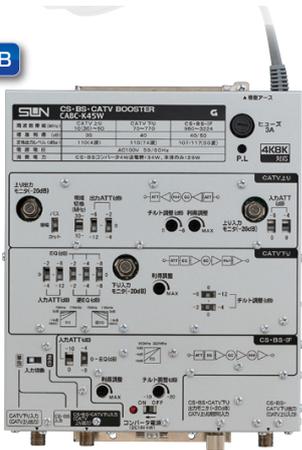
新4K8K衛星放送対応アンテナ共同受信設備に
最適な高出力タイプ

■C B U F - K シリーズ

C S ・ B S ・ U H F ・ F M ・ V L o w 対応ブースタとして38 dB型、43 dB型に加え、新たに高出力46 dB型(C S ・ B S 定格出力117 dB μ / 50波)をラインアップ。

新4K8K衛星放送対応としてC S ・ B S は上限322.4 MHz仕様、地デジ(U H F)に加えて、W i d F M、V L o w 帯域まで幅広く対応します。

45dB



NEW
新商品

4K8K
対応 CABC-K45W

対応放送

CS-BS
3224MHz

CATV

35dB



4K8K
対応 CABC-K35W

40dB



4K8K
対応 CABC-K40W

30dB



4K8K
33dB
対応 CABC-K30WS



NEW
新商品

46dB
4K8K
対応 CBUF-K46D

対応放送 CS-BS
3224MHz

UHF

V-Low-FM

43dB



4K8K
33dB
対応 CBUF-K43DS

38dB



4K8K
31dB
対応 CBUF-K38DS